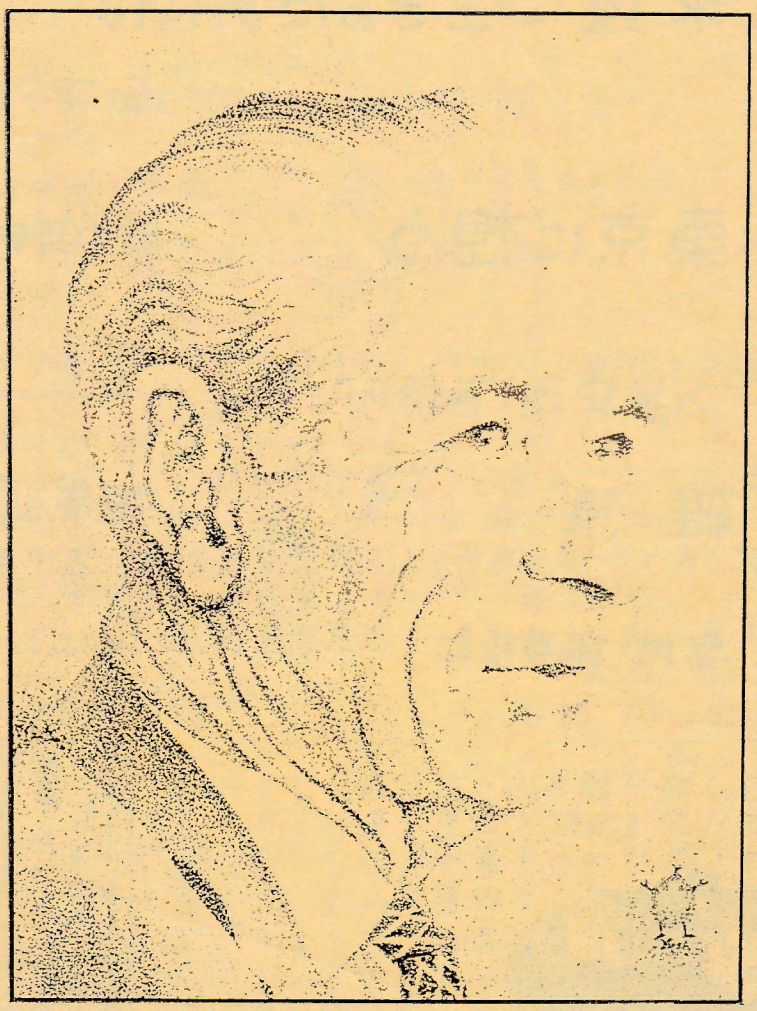
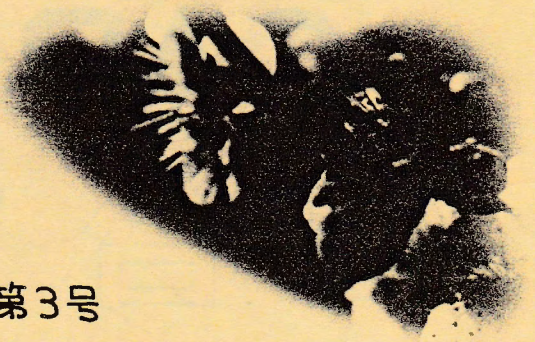
GAP
仙台支部報

No. 3





GAP仙台支部報 第3号

目　次

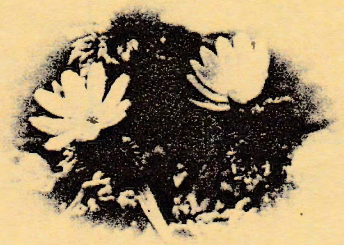
永遠に生きるためには　G・アダムスキー……1

東京に想う　田中義則……3

つぶやき（お便りコーナー）……5

雑　想　笠原弘可……6

案内・編集後記……7



表紙イラスト G・アダムス
by 山口緑

1.

永遠に生きるためには

ジョージ・アダムスキー

ゾンビとは何でしょう？ゾンビとロボットとは同一物です（訳注＝ゾンビとは魔法によって生き返らされた死体。あやつり人形と化す）。それは意志を持たない形態物か、または他からの影響力によってあやつられる形態物です。ロボットは遠隔操作かまたは内部に仕掛けられた録音テープによって作動しますが、それが知的な表現判断として唯一のものです。

三十億の人間が地球の表面から突然一掃されたらどうなるでしょうか。おそらく全人類の九十九パーセントは〝永遠〟というものを知らないで消滅するでしょう。人間は〝習慣〟という録音テープで動いているからです。人間は創意をあらわすことはまずありません。「肉体を斬る者を恐れないで、魂を斬る者を恐れよ」とイエスは言っています。私はイエスが嘘をついているとは思いません。

斬られたり破壊されたりするとすれば魂とは何でしょう？これはハニー氏の記事「センスマインドとソウルマインド」にうまく説明されていると思います。これがイエスの言う〝破壊されることもある魂〟です。この魂は肉体と同様に無機物でできているのですが、相続の法則によって〝大霊〟の潜在性をもっています。しかし永遠の生命の目的―そのために魂が創造されたのですが―を遂行するためには魂自体の持つ領土を捨ててしまい、個我としてのそれ自体をなくして〝宇宙の魂〟の奉仕のために生まれ変わることが必要です。これが「私の意志ではなくあなたの意志がなされる」という意味です。

これを、別なふうに説明しますと、無機物でできている個人の魂は〝大霊〟と融合するようになるものなのである、と言えます。そこには〝二〟のかわりに〝一〟だけが存在します。そこで私と父とは一体であると言えるわけです。父は永遠ですから魂も永遠化するのです。しかし現在そうであるように、現世においては魂は一時的なものです。そしてそれは〝大霊〟の一つの現象であるために、他の現象によって自らを支えています。ところが他の現象のほとんどは、他人によって無数にくり返されてきた現象の世界から影響を受けています。

そこで人類の大多数はゾンビ型の生存を続けているか、またロボット型の生活を送っていて、創意をほとんどあらわしていないということができます。

この問題については、残念ながら適確に説明した文献が他に見当たりません。〝生まれ変わり〟について書かれた書物のほとんどはカルマについて語り、結局〝だれもが救われるのだ〟という印象を与えています。あるいは「人間はレッス

ンを学ぼうとしなくても自己の生き方や向上の仕方について思いわずらう必要はない。なぜならば人間は永遠なるすべてと何度も生まれ変わる機会を持っているからだ」と言う人がいます。しかしこれは真実ではありません。

人間は宇宙の法則に従うことや、宇宙の魂に個人の魂を没入させることを学ばなければ、本人は個人としての自己の正体を破壊することになるのです。人間は無限に生まれ変わる機会を持っているのではありません。これはあなたが自己の正体を永遠に持ち続けようとする場合にきわめて重要なことです。

この法則をこの世界で教えている教師を私は知りません。なぜならこれは土星で私に与えられた全く新しい教えであるからです。人間が自分の本来の自我に気づくには、この法則の熱烈な探求を必要とします。右の法則は一度正しく理解されるならば実際に永遠へのカギとなるものです。それは真実の生活にもとづいて発見されたのであって、希望的観測から作られた法則ではありません。

次のように言う人があります。「この地球と同様に、他の諸惑星でも人間がどんどん生まれるならば、宇宙はまもなく超満員になるのではないか」

答えは「ノウ」です。永遠の生命を得る可能性を示さない人は消去されるという法則があるのです。これについては先にも簡単に述べましたが次の言葉はこの法則について言及したものです。

「自分の魂を惜しむ者は魂を失い、自分の生命を失う者は永遠の生命を得るだろう」

この言葉の意味は、自分のエゴを保とうとする者は宇宙的な永遠性を得るためのすべてのチャンスを失うけれども、自分のエゴ(個人的意見や欲望)を捨てる者は永続する生命を得るということです。それは落下して海洋と一体化する一滴の水滴に似ています。その場合は個別化されたものとして存在しなくなるのです。あなたを含めて一体どれ程の数の人が永遠の生命を確保しているか知っていますか。これには自分自身を"至上なる英知"の意識の中に没入させることを必要とします。それ以外に方法はありません。

そうだとすれば生まれ変わりはどこで具体化するのでしょう。これには、恩恵の法則があって、人間は十五、六回の生まれ変わりのチャンスが与えられるのですが、もしその間にゴールに向かっての進歩がなければ、諸元素は元の位置に返って他の物体によって用いられます。そうなると完全な記憶力喪失が起こります。記憶を持たない人間は全くのゼロに等しい存在です。永遠の生命を得ることは宇宙的な記憶を持つことです。これまで述べた"絶滅"とは本人の正体を忘れてしまうか、または記憶を失ってしまうことにほかなりません。

GAPニュースレター56号より
転載許可済

東京に想う

田中義則

GAPの会員の皆様、今日は。

私は去年（一九七七年）の三月まで、宮城県在住のGAP会員でしたが、四月から長かった学生生活に終わりを告げ、東京のある会社に就職して間もなく一年を迎えようとしております。この一年間、わたしにとって大きく環境が変わったのですが、新しい環境にも慣れ、ようやく落ちついてきたこの頃です。

東京！それは大変面白く、興味深い所です。これが、私の東京に対する第一印象です。とにかくたくさんの人がいるのです。通りは人がいつも一杯で、田舎育ちのわたしにとって、通りを歩くのさえ人をよけて通らねばならず、大変疲れます。そのたくさんの人のいる東京、当然のことながら、いろいろの考えを持った人がいます。いろいろな欲求を持った人がおり、いろいろな行動をしています。およそ欲しい物は何でもあり、その中で自分の一番気に入ったものを選ぶことができます。あるいは聞きたい音楽や有名な人の講演、美術展示、良きにつけ、悪しきにつけ様々な物があります。時には、同じ人間なのに、なぜこんなにも違った考えができるのかと、よくもこのような様々な個性を造り上げるものだと、神に対し、尊厳と同時に、恨みさえ感じることがあります。

しかし、それはまた、何も知らない私にとっては知ることの喜びであり、このような煩雑とした中で自分を冷静に保つということは重要なレッスンなのかもしれません。そんな意味で、東京は大いに面白い所だと言わざるを得ないのです！。

それだけいろいろな人もいますが、逆に人が多いということは同じことをしている人もたくさんいるということになります。そして彼らはいかに特徴を出すか、いかに良い物を作るか競争しているのです。戦後日本においては、例えば、カメラ、時計、カラーテレビ、自動車等、もはや世界一の製品を次々出すまでになりました。しかしこの背景には、東京の、或いは日本の高密度（競争）の社会が由に成し遂げたと言えると思います。

東京でのレッスンのもう一つに次のようなものがあります。東京のあまりの人の多さで、自分が不特定多数のうちの一人でしかないという何ともいえない孤独と、自分一人死のうと生きようとまわりは一切関係ないという疎外感がつきまとうのです。人が多ければ多い程孤独に感ずるのは不思議な話ですが、どうやら、この方が孤独感を覚えるようです。例えば女の人の独り暮らしは田舎より都会の方がさびしいのではないでしょうか。そんな考えが頭をもたげる時、私は自分自身に、自分は本当に孤独なのかと問いかけます。もちろん答は"否"です。なぜなら、私は一日を生きる間に何百、何千もの人達から恩恵を受けているからです。衣食住、どれを取っても、他の人達の多大な御世話で、こうして今、自

分が存在しているからです。これを孤独というたらその様な人に申し訳ないと思うのです。私は東京に出て、より自分がしっかりしなければいけないなと思うようになりました。と もするとと自分を見失うような気がするからです。私は最近、次の二つの事をより明確に胸に刻みつけています。

一つは〝自分のなすべきことを知ること〟

もう一つは〝自分はいかに幸福であるかを知ること〟です。

そのために前者については、いつも心を平和にして、内部の印象を見失わないようにすること。後者については、笑いを忘れぬことに気をつけています。

最近、幸福について二つの言葉を見つけたので上げさせて下さい。幸福とは、幸福を捜すことである。（ジュール・ルナアル）

。小さい子供がはじめて笑うとき、その笑いは、全然何を表現しているのでもない。幸福だから笑うわけではない。むしろ、笑うから幸福なのだと言いたい。（アラン「幸福論」）

そのうち、日本全国笑う会でも発足させようかと、冗談ですが思っています。

とりとめのないことを書いてきましたが、第一印象の東京は面白い所だというのが崩れていませんので、もう少し東京にて勉強したいと思っています。

会員諸氏で上京の際は是非声をかけて下さい。

電話は（03）3955-2074 夜遅くお願いします。

最後になりますが、世界に眼を向けると、何となく騒がしくなってきましたが、私は次の大変有名な言葉が好きです。

もし、世界の終わりが、明日だとしても、私は今日、リンゴの種子をまくだろう。

（ゲオルグ・ゲナルギウ）

では、会員の皆様の発展を祈りまして……。

左が田中氏

大きな変化をひとつお話しします。

僕個人の能力的変化ではないのですが――

僕は東京に来てからもGAPに全てをかけることをまだためらっていました。ある時には、GAPから離れかけたのです。例会に出ないときもありました。田中さんには「仕事と学校で忙しいからL」と言いましたが（本当にそういう時もありましたが）出席しても非常に疲れるだけのことがあったのです。原因については申しませんが――

とにかく昨年の夏の終わり頃まで、近づいたり離れたりを繰り返していました。しかし、昨秋、総会が近づいた頃に「やっぱりGAPだ」と決心がついたのです。そして今夏の旅行参加を申し込んだわけです。

今思うとその決心が今の変化を生んだのだと思います。

変化と言いますのは、昨年の総会の前後あたりから急に先生やHさん、Tさん、NさんなどのGAP内の代表的な方々と親しく接することが多くなりました。先日はMさんと初めて親しく話しを交わすことができました。とにかく素晴らしい方々が目の前に現われるようになったのです。聖書中の有名な言葉を思い出します。

「求めよ、さらば与えられん」

全く、心から意識との一体化を望むとき、それに至る道は、

つぶやき

おたより コーナー

照らし出されるのですね。もはや僕は、GAP活動を続けるか否かなどという問題で悩むことはないでしょう。ただこの道を歩くのみです。

――中略――

個人的なことですが、ここ二週間ばかり「宇宙からの訪問者」中で、アダムスキーか母船内でのパーティーに出席したときにマスターが食前に語った祈りの言葉（同書P268～一二～一四）をメモし、必ずこれを読んでからただ読むだけでなくできるだけイメージ化している箸をとるようにしています。――――

以前からできるだけ落ちついた気持ちで食事するように心がけていましたが、こうしていわば祈りを上げることでより一層宇宙の意識に奉仕するために食べるという自覚を持てるようになりました。もともと病気には縁がないので急に健康になったというような変化はありませんが、少なくとも食事というものを大切に考えるようになりました。強いて変化をあげれば体に有害なものは自然に食べたくなくなるということでしょうか。

……同じようなことを実行なさっていらっしゃる方も多いと思いますが、その中の一人として、まだ試してみたことのない方には、是非ともおすすめしたい方法です。

安藤 澄雄（宮城県）

雑想

笠原　弘可

世の動きは騒々しく、できる事なら山にでもこもって、混乱から脱出したい気にもなる。本当にその気になれば可能だろうが、そうせねばというフィーリングも湧かない。世の中は、甘くない、きびしいものだ。と、よく言われる。久保田先生に言わせれば、世の中は、デタラメだ、ということになる。なるほど、と思う。人に尽くそう、奉仕しようという人は、よほどでない限り現実の壁にぶつかる。早い話、社会が金で動いているから、利益を求めない事には食べていけない。

究極的に、社会体制云々ではなく、人間の考え方が変わらぬ限り、理想社会は実現できない。純粋な人ほど、この"壁"にぶつかる。そして悩み、大体が挫け、金の盲者になるか、神経がまいってしまうかのどちらかだ。純粋な人が、純粋に生きられない社会は、デタラメとしか言いようがないと思う。

では、金の盲者にもならず、神経もやられず、しかも、純粋な精神を保ち、宇宙的生き方をするにはどうすればよいのか？それは、自分の考え方に対する或いは生き方に対する絶大なる信念と、回りの雑々とした環境を気にしない"図太さ"しかないと思う。

純粋な人には"気にし屋さん"が多い。かく言う私も、かなり気にする性格だったが、今は呑気で楽天的になった。あまりの神経質さに、想念通過法と名づけて、つまらない想念をどんどん通過させてしまう練習をしたこともある。

今は、少々の事にこだわらなくなったが、ついでに忘れっぽくもなったようだ。それは元来の頭の悪さゆえだ、との声もあるが、そういう声も通過させてしまおう。

気にすべき唯一の事は、宇宙の法則の理解、という本道からはずれないようにすることだと思う。かと言って現実を無視するのでは飯の食い上げになる。体を養える方法を見つけ、その上での宇宙哲学ということになる。最近、「空飛ぶ円盤とアダムスキー」の中のこの一文が常に心から離れない。

「私を生んだ"父"に確固たる信念を持ち私のあらん限りの力を持って"父"の目的に奉仕する限り"父"は私を見捨て給うことはない。（G・アダムスキー）」

GAP通信欄

山形支部報「ユニバーサル・メッセージ」を発行しました。山形支部長の山口氏の編集・発行により、内容も素晴らしく、山口氏の努力に敬意を表したく思います。申し込みは左記の通りです。

山形支部報の紹介

〒990
山形市東原町4-5-17-18
朝日荘23
山口　緑
送料共240円を添えて
（切手も可）
へ申し込み

7.

―― 案内 ――

第1回 山形・仙台合同支部大会

本年より，仙台支部と山形支部が一致協力して，盛大な本合同大会を開催する運びとなりました。今回も，日本GAP主宰者，久保田八郎氏を迎えての講演，加えて昨年のGAP主催「宇宙考古学遺跡の旅」の映画上映と東北の会員の皆様には，見逃せない大会となるでしょう。

- 日時　5月25日(日)　午前10時より
- 会場　山形市民会館・地下大会議室（山形駅より東へ徒歩3分）
  TEL (0236) 42-3121
- 会費　1,000円　（会場受付にてお支払い下さい）

―プログラム―

10:00	支部代表挨拶	山口緑・笠原弘可
10:10	講演「アタムスキー問題の真相」	久保田主宰者
12:00	―昼食　休憩―	
1:00	映画「アメリカ中米宇宙考古学の旅」	浜村建郎
2:30	―休憩　記念撮映―	
3:00	全員自己紹介，質疑応答	
4:30	閉会	

※夕食会　大会終了後　恒例の夕食会を開催致します
2,000円で食べ放題，のみ放題！（中国料理・酒類・ジュース）

- 時間　6:00～9:00
- 会場　山形駅前「龍鳳苑」（当日ご案内致します）
- 会費　2,000円　（当日会場でお支払下さい）
- 申込　ご参加希望者は，（予約の都合がありますので）下記ハガキで　4月末日までご一報下さい。

1. 〒990　山形市東原町4－17－18　朝日荘23号室
   山口　緑　宛
2. （自宅）〒999-31　上山市小倉30　TEL 02367(9)2555

GAP仙台支部報 No3
一九八〇年四月十三日発行
編集・発行人：笠原弘可
〒980 仙台市東10番丁1国鉄A
一～一八
頒価200円 送料140円

編集後記

◎やっとこさ発行に漕ぎ着けました。新しいスタイルでやってみようと決心して，約三ケ月もかかりました。

◎新形式の支部報は，今までのように無料頒分が不可能になり，当初の月例会に参加できない会員の方への情報誌としての性格が薄れてしまいましたが，これは別に連絡版を設けて，発行しようと計画中です。

◎支部報へのご意見，その他がございましたら編者までご一報下さい